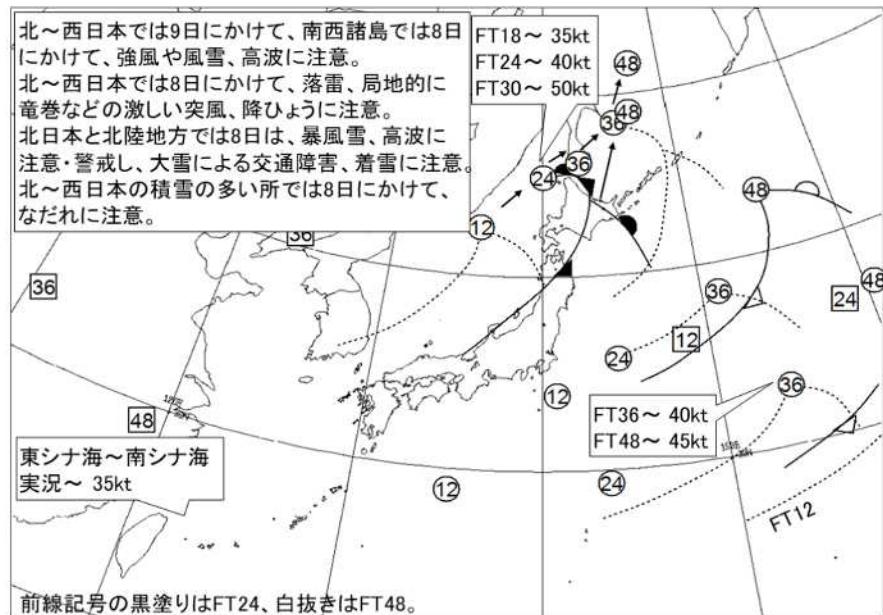


短期予報解説資料 2026年1月7日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 中国東北区の 500hPa 5280～5340mには -36°C以下の寒気を伴うトラフがあつて南東進。トラフ前面のリッジが北日本を東進。日本海中部には低気圧があつて北東進。本州を高気圧が東へ移動。
- ② 大陸の高気圧が東シナ海に張り出している。南西諸島では高気圧縁辺で波の高い所がある。
- ③ 東シナ海には 500hPa 5460m付近の -30°C以下の寒気を伴うトラフがあつて南東進。東シナ海で雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は7日朝までに前線を伴い、急速に発達しながら東北東～北東進して、7日夜には日本海北部へ進み、前線が7日から8日にかけて北～西日本を通過する。この低気圧の影響で北日本～西日本では強い風が吹き、海はしける所がある。また南西諸島付近では、1項②の高気圧の縁辺の吹送距離の長い北よりの風の影響で波が高くなる所がある。北日本と東～西日本日本海側では7日は、強風、風雪、高波に注意。南西諸島では8日にかけて、強風、高波に注意。
- ② 1項①のリッジに対応して7日朝には高気圧が日本の東に移動する。7日は北日本から西日本の日本海側の積雪の多い傾斜地では、なだれに注意。また、高気圧後面で伊豆諸島付近は気圧の谷となり、7日朝には低気圧が発生して発達しながら北東に進む。
- ③ 1項③の寒気を伴ったトラフは8日にかけて本州の南岸付近を通り日本の東へ進む。寒気を伴ったトラフや2項①②の低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、局地的には非常に不安定となる所がある。北～西日本では8日にかけて、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ④ 8日夜には 500hPa 5100m付近の -39°C以下の寒気を伴うトラフが北日本を通過し、一時的に冬型の気圧配置が強まる。北日本と北陸地方では8日は、暴風雪、高波に注意・警戒し、大雪による交通障害、着雪、なだれに注意。北～西日本では8日と9日は、強風、風雪、高波に注意。冬型の気圧配置は長続きせず、西～東日本は9日は、次第に華南と日本の東に中心を持つ高気圧に覆われる。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】**
 - ① 雨量(06時からの24時間)：多い所 (100mm以上) はない。
 - ② 降雪量(06時からの24時間)：東北50、北海道30cm。
 - ③ 波浪(明日まで)：北海道・東北5、伊豆諸島・北陸・近畿・中国4、関東・東海・九州北部・奄美・沖縄3m。
 - ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北陸地方では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。